

## 迎講阿弥陀如来像 1 軀

### 迎講阿弥陀如来像

むかえこうあみだによらいぞう

### 分野

有形民俗文化財

### 所有者

宗教法人 大念佛寺(だいねんぶつじ)

### 所在地

大阪市平野区平野上町 1

### 紹介

法量:総高 249cm



融通念仏の総本山である大念佛寺では毎年五月に「万部おねり」(まんぶおねり)と通称される来迎会の儀式が催される。

面と装束を付けた二十五菩薩と本尊天得如来(てんとくによらい)の阿弥陀来迎図の軸が練り歩く。

本像は来迎会で用いるため特別な構造を持って造像された、迎講阿弥陀如来像と称される像で、像内に人が入って像を被ったまま移動できるようになっている。

箱式の構造で底板はない。体部の内側は丁寧に薄く内割り(うちぐり)され黒漆が施されている。

光背と接合した頭部は体部と容易に分離し、内部は丁寧な加工が施され、頭部だけ独立して用いられた可能性もある。制作年代は江戸時代と考えられる。